

3-4. 下刈り判断のためのフローチャート

本事業では、実証試験地における調査結果を基に、植栽木と雑草木の平均樹高の推移や、植栽木と雑草木の競合状態（C1～C4）のデータとして取りまとめ、下刈りの必要性について検証を行った。しかし、実際に森林所有者が植栽地において下刈りの必要性を判断する場合には、上記のようなデータを準備することは難しいため、より簡易な判断基準が求められる。そこで、森林所有者が下刈りの必要性を判断する際の簡易的な判断基準とするためのフローチャートを作成した（図 3-87）。

なお、本事業で実証試験を行った樹種のうち、カラマツについてはスギやヒノキよりも雑草木による被圧の影響を受けやすいとの研究報告もあるため、フローチャートの対象植栽木はスギ、ヒノキとした。

このフローチャートの視点で植栽地の確認や状況把握を行い、個々の植栽地で知見を集積させていくことにより、下刈りについての判断基準をよりブラッシュアップしていくことが望まれる。

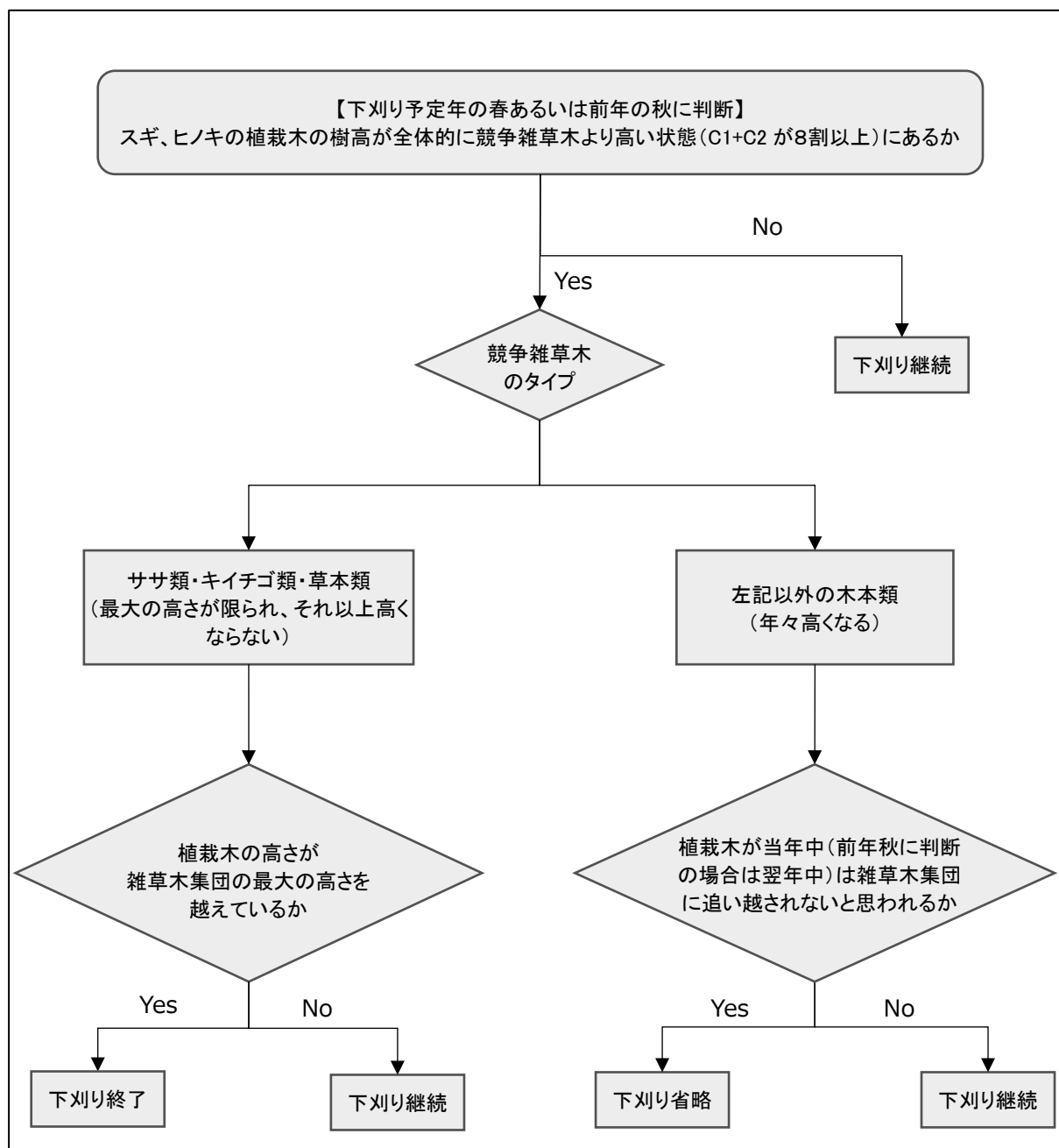


図 3-87 下刈り判断のためのフローチャート（スギ、ヒノキ）

注：カラマツについては、植栽木の樹高が競争雑草木より高くても、樹冠表面積の半分以上が雑草木に覆われると、健全に生育できないとの報告がある（原山ほか 2018）。このため、カラマツについて本フローチャートを試行的に使う場合には、「全体的に樹冠の半分以上が競争雑草木から露出している状態（C1 が 8 割以上）を最初の判断基準としてスタートした方がよい。